

平成 28 年度 「中学生チャレンジテスト」における 新東淀中学校の結果の分析について

大阪府による「中学生チャレンジテスト」について、平成 28 年 6 月 23 日（木）に、第 3 学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。
- ③ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④ 生徒一人ひとりが、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ⑤ 大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第 3 学年
- ・ 新東淀中学校では、第 3 学年 226 名

3 調査内容

- ① 国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

平成28年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 新東淀中学校

【 第 3 学 年 】

生徒数(人)

226

平均点（点）

平均無解答率（%）

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	57.9	53.9	44.0	34.2	54.8
大阪市	58.8	52.7	47.1	37.6	56.8
大阪府	59.6	52.2	48.1	38.6	57.9

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	11.2	5.6	9.4	10.0	5.9
大阪市	10.7	6.0	8.6	9.6	5.5
大阪府	10.1	6.4	8.3	9.7	5.4

結果の概要

国語は、大阪府の平均と比べ、漢字・語彙に関しての正答率が高く、無回答率が低いので、語彙力は普段の授業の漢字練習が身についていると考えられる。ただし、書く問題については、正答率も低く、無回答率も低いため、書くことに対しては苦手意識が高く、書く習慣が十分に身についていない生徒が多い。

社会は、歴史分野の基本的な用語の正答率は高かった。ただし、グラフの読み取りや資料を活用する問題では正答率が低く、課題が見られる。

数学は、全ての領域・観点で大阪府の平均を下回り、無回答率も高い結果であった。ただし、図形や確率・資料の活用に関しては、多くの問題で無回答率も低く、積極的に問題に取り組む様子がうかがえる。

理科は、どの分野も大阪市の平均を上回ることができなかつた。特に、物理的領域が大きくかけ離れていた。内容としては、無回答率は低かったが、平均が及ばない結果であった。記述式の問題では誤答が多く見受けられたが、観察・実験の問題については正答率が高かった。

英語は、全体的に記述を含む表現能力が弱い。リスニングにおいては、「何を」や適切な動詞を選ぶ問題では誤りが目立つが、それ以外は平均と比較しても大きな差はなかった。

成果と今後取り組むべき課題

国語では、漢字テスト等の取り組みを通じて大阪府平均を上回ることができていると考えられ、今後も継続して行い、合わせて、意味調べ等を並行して行うことで知識の定着を図りたい。また、書くことに対しては、苦手意識を払拭できるよう短い文を書くことの指導から始め、文を書く機会を増やし、自分の考えを根拠として明確に書くことができるよう習熟度別少人数授業を取り入れて個別の指導に取り組みたい。

社会では、大阪府や大阪市の平均を少し上回ることができたのは大きな成果である。課題としては、応用力を必要とする問題に対応する力を身につけさせることである。

数学では、積極的に取り組むことができている図形問題に関しては、正答率につながるよう、また、その他の無回答率が高い領域に関しては、積極的に問題に取り組むこと姿勢が身につくよう演習問題等を工夫し、充実させていく必要がある。

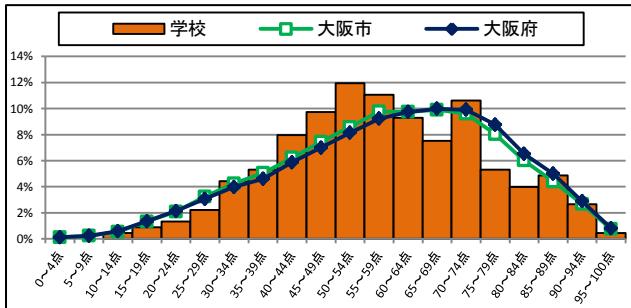
理科では、大阪市の平均にどの分野も届いてはいないので、全ての分野で、細やかに解説等に時間をかけていく必要がある。特に、記述式の問題と物理的領域を重点的に行っていく必要がある。

英語では、リスニングの力を保つことができるよう、また、聞き取りが弱い部分を伸ばすことができるよう、頻繁に英語の音に慣れる授業づくりをしていきたい。また、表現能力の向上に向けて、英作文の課題を通じて重要なポイントを授業でしっかりと指導していくことが今後の課題である。

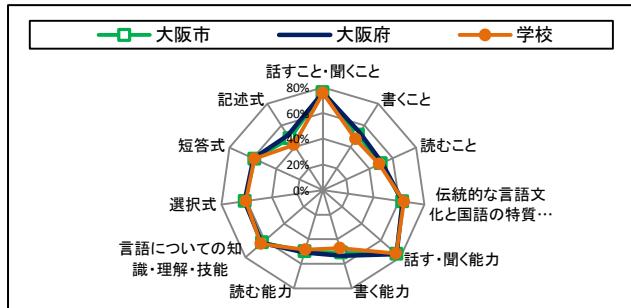
【第3学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

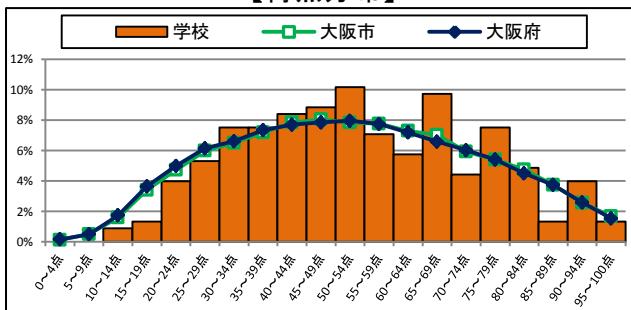


【領域・観点・問題別の分布】



【社会】

【得点分布】

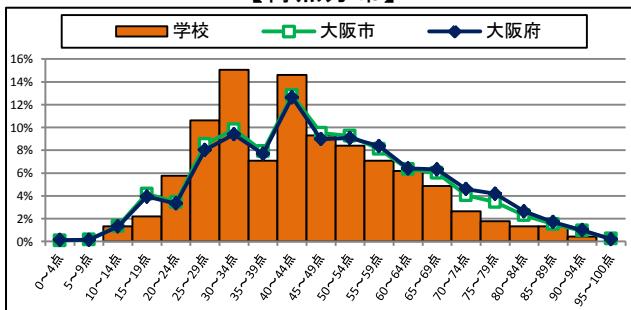


【領域・観点・問題別の分布】

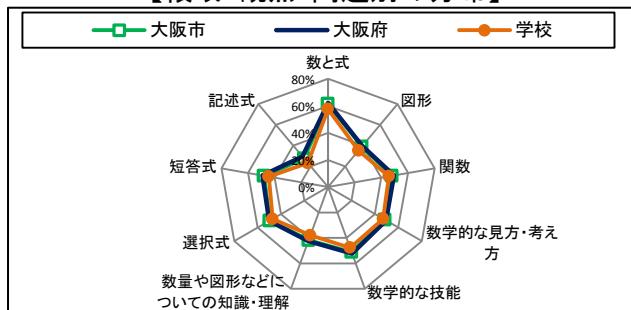


【数学】

【得点分布】

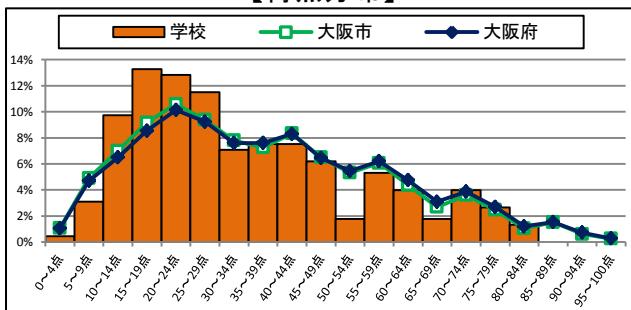


【領域・観点・問題別の分布】

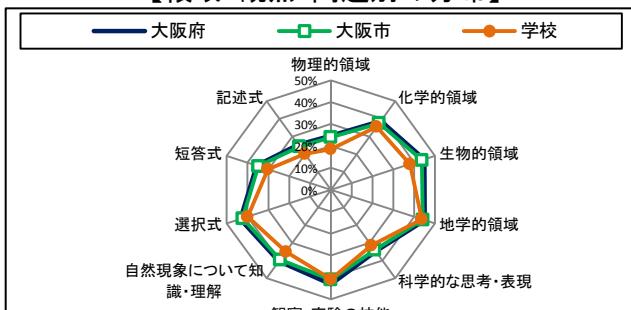


【理科】

【得点分布】

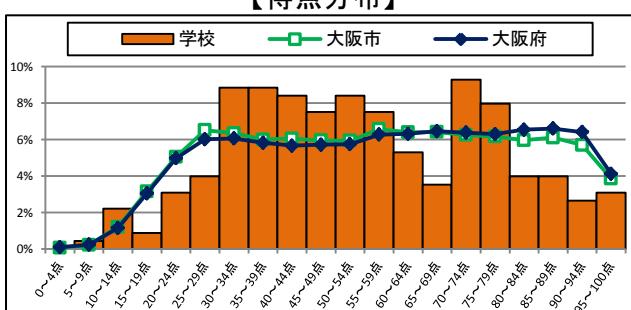


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

